

令和2年度

子ども議会 答弁書

(発言順)

質問者 <sup>まつもと</sup>松本 <sup>あまね</sup>周子 議員（1番）

## 1 沼田のよさの発信と将来について

ただいまの <sup>まつもと</sup>松本 <sup>あまね</sup>周子 議員のご質問にお答え申し上げます。

沼田のよさの発信と将来についてであります。現在、沼田市では、「広報ぬまた」や、ホームページ、フェイスブック、ユーチューブなどを活用して、市内外の皆さんに沼田のよさをアピールしています。

「広報ぬまた」は、毎月1日に発行し、市内全世帯のほか、官公庁や病院などに配布しており、今年の5月号からは、カラー印刷にし、生活情報をまとめるなど、見やすく、伝わりやすい紙面になるよう、リニューアルを行いました。

ホームページやフェイスブックでは、市からのお知らせのほか、市の豊かな自然や美しい風景、物産やイベントなどを発信し、ユーチューブでは、沼田まつりや、沼田花火大会、吹割の滝の動画をはじめ、ドイツフェンシングチームの事前合宿や観光PR動画なども配信して、

沼田のよさをアピールしています。

今後の新しい計画につきましては、市内外の皆さんに沼田のよさを再確認していただけるよう、「広報ぬまた」や、ホームページ、フェイスブックなどの内容を更に充実させて、沼田のよさをアピールしてまいりたいと考えています。

次に、将来沼田をどのような街にしたいと思っておりますか、についてであります。松本議員のご意見にありました「自慢できる街」であるためにも、人口減少や少子高齢化がもたらす課題に取り組み、「こころ豊かに暮らし、しあわせを実感できるまち 沼田」を将来像とした、第六次総合計画を基本指針として、住む人にとっても、また、訪れる人にとっても居心地のよいまちを目指し、一人一人が輝くまちづくりを市民の皆さんとともに進めていきたいと考えています。

以上申し上げます。 <sup>まつもと</sup>松本 <sup>あまね</sup>周子 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

質問者 おおたか 大高 ゆうき 悠貴 議員（2番）

1 季節の特色を生かした商売（道の駅の建設）について

ただいまの おおたか 大高 ゆうき 悠貴 議員のご質問にお答え申し上げます。

季節の特色を生かした商売（道の駅の建設）について、であります  
が、本市には、リンゴをはじめ、サクランボやブドウなど、一年を通  
して楽しめるフルーツや、気温の寒暖差を生かした、高品質な野菜な  
どがたくさんあります。

大高議員のご提案のとおり、沼田市のすばらしい特徴である「食」  
の魅力を、よりたくさんの人に知ってもらい、本市へ訪れていただく  
ために、道の駅を観光の拠点として整備していくことは必要だと考え  
ています。

また、道の駅において果物や野菜などを販売する際に、各食材を用  
いたレシピを一緒に紹介することで、お客さんと農家の皆さんとのつ  
ながりも図られ、販売促進及び本市への誘客の可能性も広がっていく

ものと思われます。

現在沼田市には、道の駅「白沢」があり、毎年、望郷の湯とあわせると、27万人近くの方にお越しいただいています。

また、道の駅ではありませんが、南郷温泉しゃくなげの湯にも農産物直売所があり、こちらも、毎年しゃくなげの湯とあわせて約20万人の方にお越しいただいていることから、これらの施設の更なる効果的な活用について、検討を進めてまいりたいと考えています。

以上申し上げまして、<sup>おおたか</sup>大 <sup>ゆうき</sup>高 悠 貴 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

質問者 おの 小野 あやな 愛菜 議員（3番）

## 1 交通安全に関することについて

ただいまの おの 小野 あやな 愛奈 議員のご質問にお答え申し上げます。

交通安全に関することについて、であります。国道120号線は、市民のみなさんの生活や観光客の利用などにより、毎日たくさんの自動車が走っています。

国が平成27年の10月に行った調査では、白沢町高平地区で1日に1万3,000台を超える通行があったそうです。

たくさんの自動車が走る国道120号線は、とても重要で便利な道路である反面、小野議員のご質問のように、歩行者が道路を渡りづらくなってしまうという問題があります。道路交通法という法律では、「歩行者が横断歩道を渡ろうとする時は、自動車は停車して歩行者の横断を邪魔しないようにしなければならない。」とされていますが、その決まりを守れない一部のドライバーのために歩行者が危険にさら

されることは、あってはならないことだと思います。

市といたしましては、自動車は歩行者を優先しなければならない、  
というとても重要なルールを、ドライバーの皆さんに守ってもらえる  
よう、広報ぬまたなどを使ってお知らせしていきたいと思います。

また、信号機や交通安全標識などの設置は、群馬県公安委員会が沼  
田警察署などと相談して行いますので、沼田警察署と連絡を取り合い  
ながら、交通安全のための対策を進めていきたいと思います。

以上申し上げます、<sup>おの</sup>小野 <sup>あやな</sup>愛奈 議員のご質問に対する答弁と

させていただきます。

質問者 武井 美里花 議員（４番）

シャッターで繋がる学生のキャンパス

ただいまの 武井 美里花 議員のご質問にお答え申し上げます。

シャッターで繋がる学生のキャンパスについてですが、まず始めに、沼田市をより良い場所にしていくために、大人のみだけでなく、将来を担っていく学生である武井議員自身も協力したい、というご提案をいただき、大変勇気づけられましたので、お礼申し上げます。

そして、シャッターをキャンパスとして、沼田市の学生で協力して絵を描こう、という素晴らしいご提案をいただき、ありがとうございます。沼田市では、テラス沼田の工事期間中に、<sup>せこう</sup>施工事業者にご協力いただき、仮囲いに幼稚園児や小中学生が描いた絵などを展示していました。「沼田市の未来を担う子供たちの作品で、殺風景になりがちな工事現場が明るくなった」と、市民の皆さんにも大変好評でした。

店舗のシャッターに、学生の皆さんの手によって、希望の象徴とな



るテーマの絵が描かれ、しかも、幾つかのシャッターを合わせると1枚の絵になり、沼田市の絆や繋がりを感じることができる。「シャッターで繋がる学生のキャンパス」は、新型コロナウイルス対策のため、人との距離を常に意識しているうちに、知らず知らずのうちに疲れてしまっている私たちの心に響き、希望を与えてくれるものになるのではないのでしょうか。

対象となる店舗をどこにしたらよいのか、店舗の所有者にご承諾がいただけるかどうか、商店街のイベントに合わせて実施するなど、プロジェクトをたくさんの人に見ていただく仕組みをどのように作っていったらよいか、など、プロジェクトの実施に当たっては、いろいろな課題が発生するかも知れません。市民の皆さんにご協力いただき、ひとつずつ解決しながら、今後も、魅力あるまちづくりに向けて、研究してまいりたいと考えています。

以上申し上げます、<sup>たけい</sup>武井 <sup>みりか</sup>美里花 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

## 1 沼田市の活性化について

ただいまの 倉田 莉 議員のご質問にお答え申し上げます。

沼田市の活性化について、であります。現在、沼田市では、市内外の方に沼田の良さを知ってもらうため、公式ユーチューブチャンネルに、観光PR、吹割の滝、沼田まつり、沼田花火大会など、51個の動画を配信して、沼田の魅力をアピールしています。

しかし、配信中の動画には、倉田議員がおっしゃるような外国語の字幕が付いた動画はありませんが、観光PR動画のタイトルには、日本語のほかに、中国語、英語、ドイツ語、タイ語で表記されたものもあり、海外の方にも沼田市を知り、興味を持ってもらい、訪れていただけるきっかけになればと考えています。

引き続き、国内・国外を問わず、より多くの方に沼田市に興味を持ってもらい、市の活性化につなげられるような動画配信について研究

してまいりたいと考えています。

以上申し上げまして、<sup>くらた</sup>倉田<sup>れい</sup>莉議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 心身に障害を持っている人に関する事
---------------------

ただいまの <sup>おさ</sup>長 <sup>あおと</sup>蒼翔 議員のご質問にお答え申し上げます。

心身に障害を持っている人に関する事、についてであります、  
まず、<sup>おさぎいん</sup>長議員より「沼田市でも障害を持っている人が暮らしやすい町になるよう工夫している」とのお言葉を頂き、大変ありがたく思います。

障害のある方が社会生活を送る上で、4つのバリアがあると言われて  
います。建築物、公共交通機関等の物理的なバリア、資格制限等による制度的なバリア、点字や手話サービスの欠如による文化・情報面のバリア、障害のある方等への意識上のバリアであります。

沼田市では、これらのバリアを解消するため、公共の建物を建築するときや改修するときは、出入り口の幅を確保し、床の段差を解消し、滑りにくい材質を使い、点字ブロックや障害者用トイレを設置してい

ます。道路においては、歩道の段差を無くしたり、傾斜を緩くしたり、歩道の幅を広くするようしています。

駅などの公共交通の施設を整備するときは、障害者が利用しやすくなるようお願いしています。

テラス沼田を利用する聴覚障害の方には、毎月2回、手話通訳者を配置し、利用しやすくなるよう努めています。

しかし、<sup>おさぎいん</sup>長議員、ご指摘のとおり、一人一人が思いやりの心を持たなければ、いくら良い施設を作っても暮らしやすい町にはなりません。これが、意識上のバリアであります。小中学校での福祉体験や沼田市社会福祉協議会が行っている福祉講演会、手話教室、車いす体験学習などの場、NPO法人などの民間団体が開催している各種イベントなどを通じて、一人一人が障害を持った人や高齢者に優しい心を持てるようこれからも努めてまいります。

以上申し上げまして、<sup>おさ</sup>長 <sup>あおと</sup>蒼翔 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

質問者 こばやし 小林 みのん 心暖 議員（7番）

1 防災や災害に関することについて

ただいまの こばやし 小林 みのん 心暖 議員のご質問にお答え申し上げます。

防災や災害に関することについてであります。まず議員が調査された広島県の防災アドバイザーに似たものとして、沼田市では防災専門官という職員を配置しています。防災専門官は、地域からの要請により、防災訓練や防災講座などを行って、市民の皆さんの防災意識の向上に努めています。

また、山口県の地域ごとの防災組織と同様に、沼田市でも各町への自主防災組織の立ち上げに取り組んでいて、現在、全体の約95パーセント、87か所の町で設立しています。

次に、災害情報や避難情報などの周知についてですが、沼田市では防災行政無線による屋外放送をはじめ、緊急告知FMラジオによる放送や、ホットメールぬまた、フェイスブック、ツイッターなどによる

文字配信を行っているほか、今年の5月からは群馬テレビにおいてデータ文字放送も開始しました。このように多種多様な伝達方法により市民の皆様へ情報発信を行い、安全安心なまちづくりを進めています。

以上申し上げます、<sup>こばやし</sup>小林 <sup>みのん</sup>心暖 議員のご質問に対する答弁

とさせていただきます。

質問者 松井 穂高 議員（8番）

1 マイナンバーカードの普及について

ただいまの 松井 穂高 議員のご質問にお答え申し上げます。

マイナンバーカードは、松井議員のご承知のとおり、本人確認の身分証明書としての利用や、買い物などでポイントを還元する「マイナポイント事業」がカード取得者を対象に始まっています。

また、来年3月からは、全国の医療機関や薬局で健康保険証としての利用が開始され、更には、カードと運転免許証の一体化などの検討が進められています。

沼田市の普及率ですが、令和2年10月末現在で、7,885名がカードを取得し、人口に対する普及率は、16.9パーセントです。

また、小学生は、165名が取得し、児童数2,035名に対する普及率は、8.1パーセントです。

次に、カードを普及させる対策や取組に関しては、広報誌やホーム



ページを通して、カードの利便性や安全性についてのお知らせや、カードを利用してコンビニで住民票などが取得できるコンビニ交付サービスを実施しており、カードを取得する際には、スムーズな手続きが可能となる自動証明写真機を市役所の立体駐車場に設置するなどの取組を行っています。

以上申し上げまして、<sup>まつい</sup>松井 <sup>ほだか</sup>穂高 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

## 1 災害について

ただいまの 本多 詠斗 議員のご質問にお答え申し上げます。

災害についてであります。沼田市では土砂崩れの危険がある地域や、洪水が考えられる地域などを掲載した防災マップを全世帯に配布して危険箇所をお知らせしています。そのほか、防災訓練や防災講座などを開催して市民の防災意識を高める活動を行っています。

また、災害に備えて、市内11か所にアルファ米、クラッカーなどの非常食や、飲料水などを備えていますが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、マスクや除菌スプレーなども準備しました。

更に、市内各町への自主防災組織の立ち上げに取り組んでおり、現在、87か所の町で設立され、防災対策に努めていただいています。

市ではこのように防災対策を行っていますが、災害はいつ、どこで起こるかわかりません。市民一人一人が常に防災意識をもって備える

ことが大切です。自分の家の近くの避難所や、安全な避難ルートを確認かめたり、非常持ち出し袋などを用意しておいたりすることをお願いしています。ご自宅に帰られましたら是非、ご家族全員で確認いただきたいと思います。

以上申し上げまして、<sup>ほんだ</sup>本多 <sup>えいと</sup>詠斗 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

質問者 <sup>いぐち めい</sup>井口 明衣 議員（10番）

1 パラリンピック競技の体験について

ただいまの <sup>いぐち めい</sup>井口 明衣 議員のご質問にお答え申し上げます。

パラリンピック競技の体験について ありますが、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、2021年に延期となった東京オリンピック・パラリンピックであります。パラリンピック競技は2021年8月24日開幕し、全22競技が行われ、9月5日閉幕する予定となっております。

22競技の中には陸上競技や水泳、卓球など障害の種類や程度によって「クラス」を分けて実施される競技、車いすラグビーや車いすテニスなどの下肢に障害のある選手が車いすに乗っておこなう競技、ボッチャやシーティングバレーボールと言ったパラリンピック独自の競技などがあります。

沼田市内の小中学校でも、体育や道徳の授業で、パラリンピックの

学習をしたり、総合的な学習の時間でボッチャ競技の体験をしたり、パラリンピックアスリートを招いてのオリンピック・パラリンピック特別講演会を実施する学校もあるようです。

令和2年7月3日、沼田市は、あいおいニッセイ同和損保保険株式会社と地方創生に関する連携協定を結びました。この協定では、パラアスリートによる講演や体験授業、パラスポーツ体験イベントの開催などを行うことができます。また、市役所の社会福祉課や沼田市社会福祉協議会では、「地上のカーリング」とも呼ばれる頭脳派スポーツ「ボッチャ」に使用する道具を市民へ貸し出しています。

パラスポーツを学び、体験することにより、井口議員のご指摘のとおり、パラリンピック競技への関心の高まりが、障害や多様性についての理解を深めるきっかけになると思います。今後も、パラ競技に触れあう機会の創出や体験の場の提供に努めてまいりたいと考えています。

以上申し上げます、井口 <sup>いぐち</sup> <sup>めい</sup> 明衣 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

## 1 沼田市の活性化について

ただいまの よしの りょう 吉野 亮 議員のご質問にお答え申し上げます。

沼田市の活性化についてであります。吉野議員のご意見のとおり、少子・高齢化や人口減少により、様々な問題が生じてきます。子どもたちが減少することで、今ある学校を維持することが困難になったり、結婚・子育て世代の転出が続くと、人口の減少とともに、さらに少子化が進行します。

また、労働力となる世代の減少によって、地元企業では人材不足となり、高齢者の増加による福祉サービスのニーズが高まる中、十分なサービスを提供することができず、それらを行う市の財政負担も大きくなり、他の市民サービスにも大きな影響を及ぼすこととなります。

そこで沼田市では、少子・高齢化と人口減少対策として、国連サミットで採択されたSDGs（エス・ディー・ジーズ）、持続可能な開発目標の視点を採り入れた、「第2期沼田市まち・ひと・しごと創生

総合戦略」を本年3月に策定しており、その中で「安定した雇用を創出する」こと、「地域への新しいひとの流れをつくる」こと、「結婚・出産・子育ての環境を整える」こと、「ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる」ことの、4つの基本目標を定めています。

具体的には、シティプロモーションにより地域産業の魅力を発信するとともに、創業支援等による産業の振興をはじめ、移住促進のための受け入れ窓口の充実やふるさとぬまた未来創造奨学金による定住の促進、子育て世代包括支援センターによる妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援、中心市街地の再生やテラス沼田の利活用によるまちづくりなど、数多くの施策しきくとそれに基づく事業を進めてまいります。

吉野議員がおっしゃるような事態におちい陥らないためにも、これらの取り組みを確実に推進し、誰一人置き去りにしない社会をつくり、この議場にいる議員の皆さんをはじめ、全ての市民とともに、持続可能で活力あるまちづくりに取り組んでまいりたいと考えています。

以上申し上げまして、吉野よしの 亮りょう 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

質問者 <sup>はしづめ</sup>橋爪 <sup>うるま</sup>美真 議員（12番）

1 移動投票所を沼田高校内に設置することは可能か

ただいまの <sup>はしづめ</sup>橋爪 <sup>うるま</sup>美真 議員のご質問にお答え申し上げます。

移動投票所を沼田高校内に設置することは可能か、についてであります。本市では、過疎や高齢化に伴い投票所まで足を運ぶことが難しい有権者のために、指定した地域を巡回し有権者の投票機会を確保する移動期日前投票に、県内でもいち早く取り組んでまいりました。

法改正に伴う選挙権の引き下げにより、現役高校生を含む10代の若年層の投票が可能になりましたが、投票率は全国的に低調であり、本県本市においても同様の結果であると認識しています。ご提案の沼田高校内に移動投票所を設置することは可能であり、高校生の投票率向上と、投票率の低い20代に向けての投票率向上にもつながるものと考えますが、貴校の生徒のみを対象として投票所を設置することはできません。また、設置場所や時間などの検討や施設管理者との協議



も必要となりますので、どのような方法が相応しいか研究してまいりたいと考えています。

以上申し上げまして、<sup>はしづめ</sup>橋爪 <sup>うるま</sup>美真 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

質問者 鳥羽 佐奈恵 議員（13番）

1 沼田市におけるホームステイについて

ただいまの 鳥羽 佐奈恵 議員のご質問にお答え申し上げます。

沼田市におけるホームステイについてであります。沼田市で行っている「田舎体験ツアー」と似た児童生徒向けの取組としては、文部科学省や農林水産省などの国の機関が推進している「子供の農山漁村体験」というものがあります。これは、将来を担う子どもたちのために、東京などの都市部の児童生徒が農山漁村に来て、農業や林業、漁業の体験を行えるような取組を市町村が進めるものです。ただし、現在、沼田市では行っておりません。

新型コロナウイルス感染症の影響で、他の地域から児童生徒を受け入れることはとても難しい状況にあります。今後、沼田市として、鳥羽議員が示した他の地域の子どもたちに対する史跡めぐりや農業体験などの取組ができるかどうかについて、市役所の様々な部署の人たち

と話し合っていきたいと考えています。

また、沼田市の児童生徒が、他の県や市町村に行って、生活環境や文化の違う地域でホームステイをすることは、沼田市と異なる地域を理解したり現地の児童生徒と交流を深めたりすることができ、自分自身の視野を広げるとともに、沼田市のよさをあらためて実感することにつながる、とてもよい機会だと思います。

このような交流につきましては、全国的に見ると、宿泊的行事の中で行っている学校があると聞いています。今後、新型コロナウイルス感染症の感染状況などを見ながら、校長先生方に情報提供をしていきたいと考えています。

以上申し上げまして、<sup>とば</sup>鳥羽 <sup>さなえ</sup>佐奈恵 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

## 1 沼田市の子どもの運動不足解消について

ただいまの <sup>かたの</sup>片野 <sup>ひかる</sup>光琉 議員のご質問にお答え申し上げます。

沼田市の子どもの運動不足解消についてであります。子どもたちの運動機会を作ることは、生涯にわたって健康的な生活を送る上で、基礎となる運動習慣の確立や、バランスのとれた心身の成長を促し、学校生活の充実に繋がるものと認識しています。

令和元年度に市民の皆さまに健康増進計画の基礎調査として健康に係るアンケートを行ったところ、小・中・高校生が家の外で1時間以上遊ぶ日が毎日と答えた人は31%でした。小中学生は外で遊んだり、部活動で定期的に <sup>からだ</sup>身体を動かす機会がある一方、高校生ではテレビやパソコン、ゲームを長時間する割合が多いという回答が得られました。さらに、大人になると仕事や家事が忙しく運動する時間がないなど、年齢が高くなると意識的に運動している人は大変少ないということがわかりました。また今年も、新型コロナウイルス感染症の影響で

家の中で過ごすことが多くなり、学校も休みが続いたり、運動する機会が一層減っているものと考えています。

沼田市では現在「スマートウェルネスぬまた」というウォーキングを中心とした市民の健康づくりを推進する事業を実施しています。また、地域と連携しながらスポーツ少年団活動を行うなど、子どもからお年寄りまですべての世代が、運動を通じて健康で活力ある生活を送ることができるよう様々な事業を行っているところであります。

市内各所にスポーツ施設や公園が整備されておりますが、最近では市民体育館であるZACROSアリーナの改修や利南運動公園のクライムスタジアム野球場及びテニスコートの整備を行っています。なお、利南運動公園にはジョギング・ウォーキングコースを整備しましたので、是非、ご家族と一緒に利用していただきたいと思っております。

今後も市民の運動機会の充実に努めてまいりますので、運動不足を解消し、充実した学校生活を送っていただきたいと考えています。

以上申し上げます、<sup>かたの</sup>片野 <sup>ひかる</sup>光琉 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

質問者 <sup>よしの</sup>吉野 <sup>はるみ</sup>春海 議員（15番）

笑顔が増える商業システムの提案

ただいまの <sup>よしの</sup>吉野 <sup>はるみ</sup>春海 議員のご質問にお答え申し上げます。

笑顔が増える商業システムの提案についてですが、新型コロナウイルスによる外出自粛で深刻な影響を受けている中で、沼田市内の多くの飲食店が、テイクアウトなどの新しいサービスを始めました。吉野議員のお家でも、テイクアウトを利用いただいているとのことで、沼田市の商業の振興を考えていただき、ありがとうございます。

沼田市では、テイクアウトなどに取り組むお店を応援するため、今年の5月に「沼田おうち時間プロジェクト」を立ち上げ、現在約80のお店が参加しています。このプロジェクトは、テイクアウトなどに取り組んでいるお店を、市のホームページや <sup>えふえむ</sup>F M <sup>おぜ</sup>O Z E のラジオ番組で紹介したり、吉野議員も「町のあちらこちらで見かける」とお話しされていましたが、ピンク色ののぼり旗とポスターを、参加し

たお店に配ってピーアールしたりと、いろいろな方法で地域のお店を盛り上げようとするものです。

新型コロナウイルスがいつ収束するか分からない状況の中で、しばらくの間、テイクアウトなどのサービスを続けていくお店が多いのではないのでしょうか。吉野議員から、誰でも簡単にいろいろなお店のテイクアウトを利用できるようなシステムについて、ご提案をいただきました。沼田市では、今のところ、お店の紹介を中心に取り組んでいますが、群馬県内には、大学生のアイデアでテイクアウトの注文やオンライン決済が簡単にできるアプリを開発したり、お年寄りなど出かけることが難しい人のために、無料で出前をするサービスを始めたりするなど、より進んだシステムを整えている市町村もあります。市民の皆さんからいろいろなアイデアをいただきながら、おいしいテイクアウトの食事で、笑顔が増えていくようなシステムが整えられるように、これからも努力してまいりたいと考えています。

以上申し上げまして、<sup>よしの</sup>吉野 <sup>はるみ</sup>春海 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

質問者 <sup>いなだ</sup> 稲田 <sup>かいと</sup> 權斗 議員（16番）

1 図書館に関すること

ただいまの <sup>いなだ</sup> 稲田 <sup>かいと</sup> 權斗 議員のご質問にお答え申し上げます。

図書館をさらに魅力的にするための改善案について、であります、新しくつくられた図書館のなかには、広々とした空間に本棚をゆったりと置き、景色のよい場所に座席を置いたり、カフェを置いたり、気持ちよい空間でくつろぎながら本が読める図書館が多くみられます。気持ちよい場所で本が読めることは意義のあることと考えますので、今後の利用拡大に大きな可能性がある5階をはじめとして、より魅力的な図書館空間を提供することができるよう、今後研究してまいりたいと考えています。

次に、図書館の入り口について、であります、現在、図書館を車で利用する場合は、下之町立体駐車場が利用できるようになっております。立体駐車場からそのまま図書館3階につながっておりますので、雨



の日であっても安心してご利用いただけるものと考えています。

図書館は地域を支える情報の拠点でありますので、市民の皆さまにさらに愛される施設となるよう、努めてまいりたいと考えています。

以上申し上げまして、<sup>いなだ</sup>稲田 <sup>かいと</sup>権斗 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

質問者 <sup>かねこ</sup>金子 <sup>りな</sup>莉奈 議員（17番）

1 障害をもつ人への理解

ただいまの <sup>かねこ</sup>金子 <sup>りな</sup>莉奈 議員のご質問にお答え申し上げます。

障害をもつ人への理解について、であります。市内の小学校や中学校の多くは、沼田市社会福祉協議会による福祉講演会・点字教室・手話教室・車いす体験学習・高齢者疑似体験など、総合的な学習の中で障害者の福祉に関する学びを取り入れています。また、沼田特別支援学校との交流を通じ、お互いに理解を深めたり親睦を図っている学校もあります。中学生では、就労体験の一環として福祉職場での仕事体験もしています。

沼田市社会福祉協議会では、手話奉仕員、点訳奉仕員、朗読奉仕員、福祉教育サポーターを養成するための講座等を実施しています。

民間団体では、ひまわりの会が主催する「友情列車を走らせる」という名前の貸切団体列車で、障害のある人、高齢者、子ども、ボラン

ティア、一般の方たちで旅行して、親睦を深める事業が実施されたり、  
ごったく祭り実行委員会と市ボランティア協議会共催のごったくまつ  
り・ボランティアフェスタも開催しています。

今月、市内にオープンした民間障害者複合施設では、病気や障害の  
有無にかかわらず、あらゆる世代の人たちが交流できる施設となっ  
ています。

このように、障害について、あるいは障害者について、学ぶ機会や  
ふれあう機会は数多くありますので、積極的に参加・体験していただ  
き、障害者に対する理解を深めていって欲しいと思います。

以上申し上げます、<sup>かねこ</sup>金子 <sup>りな</sup>莉奈 議員のご質問に対する答弁と  
させていただきます。

質問者 <sup>こばやし</sup>小林 <sup>せな</sup>瀬南 議員（18番）

1 本町通りの活性化について

ただいまの <sup>こばやし</sup>小林 <sup>せな</sup>瀬南 議員のご質問にお答え申し上げます。

本町通りの活性化について、であります。現在、本町通りにおいて、居住環境の改善と商業活力の向上を目的として、にぎわいの復活や魅力的な都市空間の形成を目指し、歴史や文化に根ざした、住民にやさしく、快適で活力あるまちづくりを推進しています。

この事業の実施により、テラス沼田周辺や本町通り東側の上之町においては、広い歩道が整備されたり、使いやすくなった土地に、店舗や福祉施設、生方記念文庫などの公共施設が新たに整備されています。

小林議員のご提案のとおり、学生やお年寄りが気軽に交流できる施設があることは、本町通りの活性化につながるものと考えており、その拠点として、今年10月にオープンした「テラス沼田1階の多目的スペース」などを活用していければと考えています。

また、上之町で整備が進んでいる「歴史的建築物」を活用することで、市民だけでなく市外からの来街者との交流も進み、さらに活性化するものと考えていますので、今後も関係者や住民の意見を取り入れながら、まちづくりを進めてまいりたいと考えています。

以上申し上げまして、<sup>こばやし</sup>小林 <sup>せな</sup>瀬南 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

質問者 小野 愛翔 議員（19番）

1 誰もが安心して生活できる魅力ある町づくりについて

ただいまの 小野 愛翔 議員のご質問にお答え申し上げます。

誰もが安心して生活できる魅力ある町づくりについてであります、  
全国で高齢者ドライバーによる自動車事故が多数発生しています。

そのため、沼田市では、高齢者の方が保有している運転免許証を自主返納する際、バスカードを交付するとともに、日常生活の移動支援として、65歳以上の市民を対象に、「バスカード」の助成や、高齢者及び障害者の一部の方には、タクシー運賃の助成も行っています。

また、市内のNPO法人などにより、歩行が困難な方を病院やスーパーマーケットへ送迎するサービスなども行なわれています。

小野議員がご提案の移動式のスーパーにつきましては、“行く”のではなく、“来る”という発想による大変素晴らしいアイデアで、市内でも「移動型コンビニ」を開始し、生鮮食料品など約300品目を

軽トラックに積み、高齢者のお宅などへ訪問販売を行っており、新たなサービスが生まれています。

公共交通につきましては、路線バス利用者の減少に加え、自宅から最寄りの駅やバス停まで遠く離れている地域、いわゆる公共交通空白地域の問題などに対応するため、本年度、これらを根本的に見直し、誰もが利用しやすい移動形態について、検討を開始しています。

全国では、次世代の移動サービスを導入している自治体もあり、スマートフォンのアプリを利用して、自宅近くまでバスを呼ぶことができるデマンドバスをはじめ、看護師が車で訪問し、ビデオ通話により遠隔地から医師が患者を診察する移動診察車を導入している例や、自動運転による路線バスの運行実験も行われています。

沼田市におきましても、こうした先進的な取り組みを参考にしながら、日常生活における利便性の向上を目指して、安心して暮らせるまちづくりを進めていきたいと考えています。

以上申し上げます。おの まなと  
小野 愛翔 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

質問者 <sup>むらまつ</sup> 村松 <sup>いずみ</sup> 和泉 議員（20番）

1 ソーラーパネルの設置と環境問題について

ただいまの <sup>むらまつ</sup> 村松 <sup>いずみ</sup> 和泉 議員のご質問にお答え申し上げます。

ソーラーパネルの設置と環境問題について、であります。太陽光発電などの再生可能エネルギーは、温室効果ガスの発生が少なく、2012年からは再生可能エネルギーの買い取り制度ができたこともあり、地球温暖化防止に貢献する低炭素の国産エネルギーとして全国に広く普及しています。

一方、太陽光発電所の建設においては、一定程度の広さの敷地が必要のため、村松議員のご指摘のように立地条件によっては、樹木の伐採を伴うこともあると認識しています。

本市では、太陽光発電所等の設置にあたり、「再生可能エネルギー発電設備の設置に関する指導要綱」という市のルールを作り、設置事業者に対し、開発協議、指導を行っているところであります。



これに基づき、自然環境や景観等への影響はどうか、排水施設や構造物が適切に設置され、災害等を発生させるおそれがないか、近隣関係者の生活環境を保全するための適切な措置が考えられているかなどを確認し、周辺環境との調和に十分に配慮するようにしています。

今後も隣接住民への十分な説明と協議により合意形成を図るよう指導を行っていくとともに、土地利用について、行き過ぎた樹木伐採が生じないよう関係機関と協議を行い、環境保全と土地利用との調和が図られるように、引き続き指導に努めてまいりたいと考えています。

以上申し上げます、<sup>むらまつ</sup> 村 松 <sup>いずみ</sup> 和 泉 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

質問者 <sup>なかむら</sup> 中村 <sup>ひまり</sup> 向日璃 議員（21番）

1 沼田市の観光客を増やすために

ただいまの <sup>なかむら</sup> 中村 <sup>ひまり</sup> 向日璃 議員のご質問にお答え申し上げます。

沼田市の観光客を増やすために、であります。沼田市は首都圏から比較的近いこともあり、温泉をはじめリンゴ狩りやラベンダーやスキーなど、季節によって、いろいろな目的で首都圏を中心に来客をいただいているところです。

ご質問の道の駅「白沢」の、農産物直売所「座・白沢」では、四季を通じて旬の野菜や果物、地元農産物の加工品などが販売されており、観光客の人気スポットとなっています。直売所だけで、年間約10万人もの入り込みがあるほか、温泉施設では約18万人の観光客が訪れるなど、本市を代表する観光施設であり、多くの方に立ち寄っていただいている道の駅であります。

中村議員がおっしゃるように販売施設の充実や体験型の施設を取り

入れるなど、施設の充実などを行うことは、さらに多くの観光客の方に足を運んでいただくための、よいアイデアであると考えられます。

また、現在、道の駅「白沢」沿いの国道120号は観光客が多く通る街道であり、とんかつのお店や観光果樹園など、多くの魅力ある施設が点在しています。

市といたしましても、中村議員のご提案を参考にさせていただくとともに、道の駅をポイントとした誘客と街道沿いのお店への誘客も促していけるよう、観光協会や関係機関とも連携を図るなど、効果的な情報発信を行い、誘客の増加に努めてまいりたいと考えています。

以上申し上げまして、<sup>なかむら</sup>中村 <sup>ひまり</sup>向日璃 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

質問者 鳥羽 咲恵 議員（22番）

1 市営キャンプ場の建設について

ただいまの 鳥羽 咲恵 議員のご質問にお答え申し上げます。

市営キャンプ場の建設について、であります。沼田市には玉原高原や吹割の滝などに代表される自然をはじめ、温泉や、スキー場、また一年を通して楽しめるフルーツ狩りなど豊富な観光素材があり、毎年300万人を超える観光客の皆さんにお越しいただいています。

鳥羽議員のおっしゃるように、野外で自然を満喫しながらのキャンプは、ここ最近、一層人気を集めており、コロナ対策として密を避けて楽しむことができるレジャーでもあります。

現在市内には、市の施設である玉原高原内にあるキャンプ場と、民間が運営している3施設があり、いずれも本市の自然などを楽しんでいただけるよう、それぞれ特徴を持った施設運営がなされているところです。

現在ある4つの施設をレジャーとして楽しむだけでなく、鳥羽議員のおっしゃるように学習活動などにもうまく利用していくことも視野に入れ、市内各キャンプ場施設の紹介を行うなど、多くの皆さんに知っていただけるよう、インスタグラムなどSNS等も利用した情報発信も含め、誘客を図ってまいりたいと考えています。

以上申し上げまして、鳥羽 <sup>とば</sup> <sup>さきえ</sup> 咲恵 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

質問者 <sup>よこさか</sup>横坂 <sup>りゅうき</sup>竜樹 議員（23番）

1 沼田市の未来を担う人たちについて

ただいまの <sup>よこさか</sup>横坂 <sup>りゅうき</sup>竜樹 議員のご質問にお答え申し上げます。

沼田市の未来を担う人たちについて、であります。横坂議員がおっしゃるように、本市でも少子高齢化の進行とともに人口の減少も続いています。

こういった状況に対応し、ふるさと沼田へのUターンや首都圏などからのIターンを促すため、オンライン会議システムを使った「移住相談」や本市での暮らしや自然を体感してもらうためのお試し住宅である「移住促進トライアルハウス」、今までの仕事や職場を変えることなく移住してもらえるように、県外への通勤定期代の一部を補助する「移住促進通勤費補助金」などを沼田市独自で取り組んでいます。

こういった沼田市の制度を利用し、「豊かな自然に囲まれた環境で子育てをしたい」と沼田市に移住し、お父さんは東京へ新幹線通勤を

続ける世帯や自分の夢を叶えるために沼田市へ移住し、起業された方などがいらっしゃいます。

また、東京一極集中から、ふるさと回帰を促すために全国的に取り組んでいる「移住支援金制度」など、首都圏からの移住者を迎えるさまざまな制度を用意しており、沼田市ホームページや群馬県の移住促進ポータルサイトなどで積極的にPRも行っています。

今後についても若い人たちはもちろんですが、市民の方々に住み続けてもらえる、また、首都圏の方々に、沼田市へ移住していただけるような対策を、進めてまいりたいと考えています。

以上申し上げまして、<sup>よこさか</sup>横坂 <sup>りゅうき</sup>竜樹 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

質問者 まつい ひろむ 松井 翔夢 議員（24番）

1 みんなの過ごしやすい沼田市

ただいまの まつい ひろむ 松井 翔夢 議員のご質問にお答え申し上げます。

みんなの過ごしやすい沼田市について ありますが、まず、障害を持つ人たちから直接意見を聞く機会としては、日々の窓口業務の中で、ご要望やご意見、困り事を聞いたり、様々な障害者団体の方からもお話しを聞いています。

また、今年度は、沼田市障害者福祉計画の策定年度であり、障害者手帳を所持している方から、無作為に1,000名抽出して、アンケート調査を実施し、ご意見をいただきました。アンケート結果は、貴重なご意見として計画に反映させ、市の様々な施策に生かすこととなります。障害福祉計画は、ポスターという形にはありませんが、冊子として発行し、市のホームページへも掲載を予定しています。

次に、障害を持つ人達が過ごしやすい社会にする取組ですが、道路



や建物では、十分な整備が行われていないところがありますので、計画的に整備を進めています。特に、公共施設の新築・改修時には、障害のある方や高齢の方の歩行や、車いすの方の通行に配慮するよう環境整備に務めています。また、公共交通施設の整備では、関係機関に働きかけを行い、利用しやすい施設・設備になるように要請するなど、改善に取り組んでいます。

建物や施設の改善を行うとともに、障害のある方が地域で生活し、健常者と一緒に学び、働いていけるような施策をこれからも展開していきたいと考えています。

松井議員ご指摘のとおり、これからも障害を持つ人達の意見に真摯に耳を傾け、障害のある方をはじめ、すべての人が安全・安心で快適な日常生活を送れるよう努力していきたいと考えています。

以上申し上げまして、<sup>まつい</sup>松井 <sup>ひろむ</sup>翔夢 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

## 1 高校生の通学での交通費について

ただいまの <sup>みやざわ</sup>宮澤 <sup>ひな</sup>陽奈 議員のご質問にお答え申し上げます。

高校生の通学での交通費についてであります。現在、本市では、公共交通機関を利用し通学する高校生に対しての交通費を補助する支援は行っておりません。しかしながら、高校生のいる家庭の経済的な負担を軽減することは、重要なことだと認識しています。高校生の通学に係る交通費の実態を踏まえ、適切な支援について研究してまいりたいと考えています。

また、本市では、経済的理由により進学及び修学困難な者に対して沼田市奨学資金の貸し付けを行っております。自分の学びたい学校への進学を諦めることがないように、奨学金の活用も検討していただくよう周知を図っていきたいと考えています。

以上申し上げます。 <sup>みやざわ</sup>宮澤 <sup>ひな</sup>陽奈 議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。